

国語 第5学年 物語の全体像を想像し、考えたことを伝え合おう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語』（令和6年度版）第5学年に載る物語。同社の年間指導計画例では9月～10月に置かれている。物語は主人公の綾の一人称で語られる。東京書籍『新編 新しい国語』（令和6年度版）の第5学年では、同じ時期に「注文の多い料理店」で同じC(1)エを扱う。場面の分け方と呼び方は使う教科書の本文で確かめる。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、「たずねびと」の始めと終わりで綾の思いがどう変わったかを、変化のきっかけになった出来事と叙述を挙げて説明し、題名の意味を自分の言葉で言える。くり返し出てくる言葉が物語全体の中でどんな働きをしているかにも気付き、物語をひとまとまりとして捉えた自分の考えを文章にまとめ、友達の考えと比べて考えを広げる。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)ク	ク 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。
〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと(1)エ	エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。
〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと(1)イ	イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。
〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと(1)カ	カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。
〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと(2)イ	イ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(3)オ	オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くこと。
〔第5学年及び第6学年〕の目標(2)	(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。
〔第5学年及び第6学年〕の目標(3)	(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。

学習指導要領の項目	原文
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(6)	(6) 第2の第1学年及び第2学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のエ、第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のオ及び各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」に関する指導については、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに、他教科等の学習における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(10)	(10) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道德教育の目標に基づき、道德科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道德の第2に示す内容について、国語科の特質に応じて適切な指導をすること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(1)	(1) 教材は、第2の各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達の段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(2)カ	カ 生命を尊重し、他人を思いやる心を育てるのに役立つこと。

単元の目標

比喩や反復などの表現の工夫に気付く（(1)ク）。人物像や物語全体を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりし、文章を読んでまとめた意見や感想を共有して、自分の考えを広げることができる（C(1)エ・カ）。言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、思いや考えを伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。（(1)ク）	①「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（C(1)エ） ②「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)カ）	①進んで、物語全体を具体的に想像し、学習の見通しをもって、考えたことを文章にまとめて伝え合おうとしている。

単元の流れ

全6時間。光村図書出版『国語』（令和6年度版）の年間指導計画例（第5学年）で、この単元は9月～10月、読むこと6時間。国語の標準授業時数は第5学年で年間175単位時間（学校教育法施行規則 別表第一）。配当は自校の年間指導計画に合わせる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○範読を聞き、初発の感想（強く印象に残ったこと・疑問に思ったこと）を書く。 ○感想を出し合い、単元の問い「綾の思いは、物語の始めと終わりでどう変わったのか。題名『たずねびと』にはどんな意味があるのか」と学習の進め方を決める。	態①（観察・感想）
第2次	2	○物語を場面に分け、場面ごとの出来事と、その時の綾の思いを表にまとめる。	
	3	○綾の思いが変わるきっかけになった出来事（資料館・祈念館・おばあさんとの出会いなど）を、描写を基に捉える。 ○物語の中でくり返し出てくる言葉を探し、出てくる場面を並べる。	知①（表・ノート）
	4 （本時）	○物語の始めと終わりの綾を比べ、変化のきっかけと結び付けて題名「たずねびと」の意味を考え、物語全体について考えたことを自分の言葉で書く。	思①（ノート）
第3次	5	○くり返し出てくる言葉など、印象に残った表現の効果を考え、単元の問いへの考えを文章にまとめる。	思①（文章）
	6	○まとめた文章を読み合い、自分の考えと比べて広がったことを書く。 ○戦争や平和を扱ったほかの本を紹介し、並行読書が始める。	思②（付箋・振り返り） 態①（文章の見直し・振り返り）

本時の案

本時の目標：物語の始めと終わりの綾の思いを比べ、変化のきっかけになった出来事と結び付けて題名「たずねびと」の意味を考え、物語全体を具体的に想像できる。(C(1)エ)

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前時までの表で、場面ごとの出来事と綾の思いを確認する。 2 本時の問いをつかむ。 ○「物語の始めの綾と、終わりの綾は、同じですか。違いますか」 【めあて】始めと終わりの綾をくらべて、題名「たずねびと」の意味を考えよう。 〈予想される児童の反応〉 ・始めは、自分と同じ名前に驚いただけだった。 ・終わりの綾は、その名前の子のことを思っている。 ・題名の意味は、まだはっきりしない。	・前時までの表を黒板に貼り、始めと終わりの場面の欄を目立たせておく。 ・始めと終わりの場面の叙述は、先生が教科書から書き入れたカードで示す。
展開 (分)	3 始めと終わりの綾の思いを、叙述を基に比べる。 ○「始めの場面と終わりの場面で、綾にとっての『名前』はどう違いますか。どの叙述からそう考えましたか」 4 変化のきっかけを考える。 ○「綾の思いが変わったのは、どの出来事からですか。前の場面のどこと結び付けましたか」 5 題名「たずねびと」の意味を考える。 ○「『たずねびと』とは、だれのことだと思いますか。読み終えた今、題名の意味はどう見えてきましたか」 6 グループで考えを伝え合い、全体で共有する。 〈予想される児童の反応〉 ・始めは、自分と同じ名前の人がいる、と思っただけだった。 ・終わりでは、その名前の子がどんな子だったかを思っている。 ・資料館や祈念館で、亡くなった一人一人に名前があったと知ったから。 ・おばあさんの話を聞いたから。 ・一つではなく、いくつもの出来事が重なったから。 ・ポスターでさがされている人だと思う。 ・広島をたずねた綾だと思う。 ・両方の意味があると思う。	・気持ちを言う前に叙述に線を引かせ、どの場面のどの叙述かを言わせる。 ・変化のきっかけは一つに決めず、いくつもの出来事が重なったと考える子の考えも認める。 ・題名の意味は正解を一つに決めない。叙述を根拠に言えていれば認める。 ・考えが書けない子には、表の始めと終わりの欄だけを見比べさせ、「始めは…、終わりは…」の型で書かせる。 ・早く書けた子には、くり返し出てくる言葉が、物語全体を考えるのにどう役立ったかを考えさせる。 ・戦争の被害の様子を強く受け止める子がいることに配慮し、資料館の場面は叙述の確かめにとどめ、写真などの資料は足さない。 ・台詞や叙述の引用は、使う教科書から先生が書き入れる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ (分)	7 物語全体について考えたことを、自分の言葉でノートに書く。 (型)「始めの綾は…だったが、…という出来事を通して、終わりには…と思うようになった。だから、題名『たずねびと』には…という意味がある」と考える」 8 振り返りを書く。	・根拠にした叙述の場面を、括弧で添えさせる。 ・振り返りは「叙述から気付いたこと」「友達の考えを聞いて変わったこと・変わらなかったこと」の二つで書かせる。 ・次時は、心に残った表現の効果を考え、単元の問いへの考えを文章にまとめることを伝える。 ・「戦争はいけない」などの教訓のまとめにしない。綾の思いの変化を読むことを本時の中心にする。 ◎思① 物語の始めと終わりの綾の思いを比べ、変化のきっかけと結び付けて、物語全体を具体的に想像している。(ノート)

板書の構造（縦書き・右から左へ）

上段左に日付・題名・めあて。上段右に前時までの表（場面ごとの出来事と綾の思い）。中段の左に始めの場面の綾、右に終わりの場面の綾を書き、その間に変化のきっかけになった出来事（資料館・祈念館・おばあさんなど）を矢印でつなぐ。それぞれの下に根拠の叙述の場面を書く。中段の下に、くり返し出てくる言葉を、出てきた場面の順に並べる。下段に題名「たずねびと」の意味についての子どもの考え（さがされている人・たずねた綾・両方）を並べ、根拠の場面を添える。右端にまとめの文の型と振り返りの観点。

つまずきやすい所と手当て

つまずきやすい所は五つ。一つ目、場面ごとの出来事は言えるが、物語全体として何が変わったかを言えない。手当ては、表の始めと終わりの欄を並べて見比べる時間を取り、「始めは…、終わりは…」の型で言わせること（C(1)エ）。二つ目、綾の思いを「悲しい」「かわいそう」の一語で済ませる。手当ては、思いを言う前に描写や叙述に線を引かせ、どの叙述からかを添えさせること（C(1)イの「描写を基に捉える」）。三つ目、題名の意味を一つの正解として探す。手当ては、叙述を根拠にしていれば複数の考えを受け止め、黒板に並べて残すこと。綾の一人称で語られていることに目を向けさせると、綾自身の変化として題名を考えやすい。四つ目、くり返し出てくる言葉に気付かない、または気付いても効果を言えない。手当ては、その言葉が出てくる場面を順に並べた表を作り、場面ごとに言葉の重みがどう違うかを比べさせること（(1)ク、C(1)エの「表現の効果」）。五つ目、戦争の描写を強く受け止め、学習に向かえなくなる子がいる。手当ては、単元の前に学年や管理職と配慮の要る子を確認、資料館の場面は叙述の確かめにとどめて、写真などの資料を足さないこと。

プリントの案

場面と綾の思いの表（単元の間ずっと使う）

横に場面、縦に「出来事」「綾の思い」「根拠の叙述（場面と行の目印）」の3行。始めの場面と終わりの場面の欄は太枠にして、見比べやすくする。C(1)エに合わせた。

くり返し出てくる言葉の表

左に、物語の中でくり返し出てくる言葉。右に、その言葉が出てくる場面を順に並べ、それぞれの場面でその言葉が綾にとってどんな重みをもつかを書く欄。下に「この言葉がくり返されることで、読む人にどう伝わるか」の欄。(1)クとC(1)エの「表現の効果」に合わせた。

本時のワークシート

左に「始めの綾」、右に「終わりの綾」の枠、その間に変化のきっかけを書く矢印の枠。下に「題名『たずねびと』とは、だれのこたか。そう考えた叙述はどこか」の枠と、まとめの文の型。本文は先生が教科書から書き入れるので印刷しない。

単元の問いの作文用紙と振り返りカード

作文用紙は「始めと終わりの綾の思い」「変化のきっかけ」「題名の意味」「心に残った表現とその効果」の四つの枠。振り返りカードは「叙述から気付いたこと」「友達の考えを聞いて変わったこと・変わらなかったこと」の二つの枠。C(1)エ・カに合わせた。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm)／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価標準の文末と3観点の形 (https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf)／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）(<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>)／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第5学年175）。e-Gov法令検索 (<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>)／光村図書出版『国語』（令和6年度版）年間指導計画例（第5学年）。单元名・教材名・時期（9月～10月）・配当時数（読むこと6時間）・指導目標の出典 (https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/d8b2753f-1cbb-415c-a570-2a2cfa70fbe3/368)／光村図書出版 小学校国語 年間指導計画の一覧ページ (<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/keikaku>)／東京書籍『新編 新しい国語』（令和6年度版）第5学年 单元一覧。「注文の多い料理店」（9月～10月・6時間・C(1)エ）の出典 (https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_5_202401.docx)
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

